



ウスワ村に救急車を♡

希望の光をタンザニアへ

☆主催 Life Support Project

なぜウスワ村？なぜ救急車？

アフリカにあるタンザニアのウスワ村は大府市の小学生が、総合的な学習の時間に繋げた村で、約 10 年間交流が続いています。3 年ほど前、村には小さな診療所ができ、医師と関わる中で、

タンザニアの医療は、日本とかけ離れた医療設備であり、日本では助かる命が、現地では助からないという現状を知りました。親を失う子や、子を失う母の気持ちは、言葉や数字では測ることができない大きな悲しみがあります。現在の日本の医療で助かる命は少しでも助け、大きな悲しみの涙を一粒でも減らすことに尽力したいと考えました。



ウスワ村はここだよ



ウスワ村の小学生

日本では、年数がたつと救急車を買換えます。大府市民の命を守ってきた救急車が廃棄されることなく、次はウスワ村の人々の命を救ってほしいと考え、救急車を送るプロジェクトを立ち上げました。

タンザニアの医療

日本と同じ医療水準の施設はなく、医療従事者や医療器具の不足や衛生観念の欠如など、安心して医療を受けられる状況ではありません。海外から支援として中古の救急車が送られてきますが、優先順位が大規模な病院からであり、町や村に救急車はもらえないのが現実です。

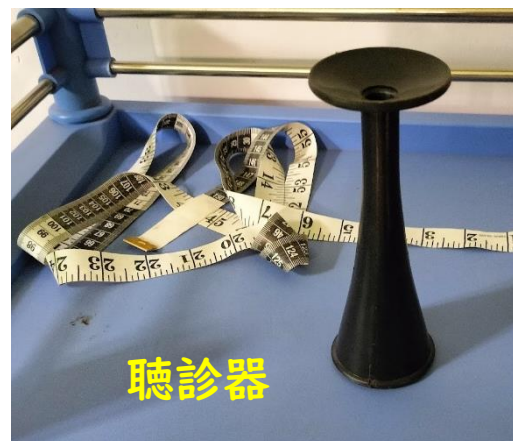


ウスワトリニティ診療所

2021年、アメリカサウスウッド・ルーテル教会の支援により、診療所ができた。様々な地域から様々な患者を受け入れています。時には合併症が起こることもあり、高度な病院に搬送しなければならないこともあります。村には救急車はなく、スクールバスや牧師の自家用車を使って搬送しています。



建物は立派ですが、医療器具や薬はほとんどありません。



村人の声

事故や病気、出産などで多くの患者が病院を訪れます。しかし、病院の設備は少なく、やむをえず町の病院に搬送しなければならない事があります。

今の搬送方法では、患者の精神的・肉体的な負担はとても大きなものがあります。患者を寝かせたまま、適切な治療を行いながら安全に大きな病院へ運ぶことは、私だけでなく村人全体の切なる願いです。〈ケシー牧師より〉



多くの母親がこの診療所で新生児を出産し、命を誕生させたことはこの診療所で働く医師にとって大きな喜びです。しかし、新生児に異常があった場合、急いで大きな病院に搬送する必要があります



〈アナンデ医師より〉

救急車は多くの命を救うでしょう。



夜間の移動は難しいです。暗闇の中でのバイクの移動は、崖から落ちる可能性が高いです。

特に、雨が降っていると、バイクはぬかるみにはまり、身動きが取れなくなってしまう非常に危険です。大切な家族が命を落とす危険性は大きな問題です。〈村のコミュニティ レマ氏より〉

これまでの活動経過

- 3月10日 Life Support Project 立ち上げる。
- 3月12日 消防署の方と会議 ①
救急車寄贈について
- 5月16日 タンザニア大使館訪問（日本）
救急車海外寄贈について
- 7月11日 消防署の方と会議 ②
救急車海外寄贈に必要な書類について
- 7月21日 タンザニア ウスワ村訪問（～8月5日）
- 7月26日 ルーテル教会本部訪問
救急車を受け取るための書類や税金について
- 7月29日 日本大使館訪問（タンザニア）
タンザニアの医療と支援について
- 7月31日 JICA タンザニア訪問
タンザニアの医療現場視察と救急車の現状について
- 8月19日 JICA 中部訪問
海外支援の心がけと国際理解教育について
- 8月22日 プロジェクト内容についての共有会議
募金の集め方について
- 9月5日 市長表敬訪問
今後の進め方について



今後の計画 目標 100 万円（送料）

- 9月22日 福祉健康フェア（募金活動）
- 10月26日・27日 大府市産業文化まつり（募金活動）



- 2025年2月頃 救急車をタンザニアに向けて搬送予定
（日本からタンザニア ダルエスサラーム港へ）
- 2025年3月頃 ウスワ村に救急車到着予定
（ダルエスサラーム港よりウスワ村へ）

- ☆協賛 大府アフリカ教育支援プロジェクト
特定非営利活動法人ジャパンアフリカトラスト
医療法人 広川レディスクリニック
加藤産婦人科